

			部会名	暮らし部会	
施策No.	2-6-2	施策名	母子保健の推進	施策主管課	健康づくり課
施策の目指す姿	安心して出産し、親子が健やかに育っています				
■ 施策評価シート(令和3年度実績評価)について					
<p>「◎前年度評価の振り返り」の「反映状況」について 「前年度評価時の今後の方向性」で示された課題に対応する形で取り組みがなされている。</p>					
<p>「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について 担当課が健診未受診者に対して電話や訪問などを通して積極的に受診勧奨に取り組んだにもかかわらず、「乳幼児健康診査受診率」が低下した背景・要因として、個々の調査から、入院治療中など個別事情のほかコロナ感染状況および感染不安による受診時期の延期や受診控えなどがその理由として認められており、未受診者は受診の意思がありながらも、いわゆるコロナ禍に係る当該年度特有の特殊事情などにより、年度内の受診を見送るという状況の存在が指摘されている。おおむね的確に分析がなされているものと考えられる。最後の一文はこの分析を受けて「対象者は必要な健診を受診するものと推察される」となっているが、この一文は、このままだと、あたかも担当課が対象者の状況を把握していないかのような誤解を与えてしまうのではないかと懸念される。たとえば次のような文章にすることで、この一文の趣旨がより分かりやすくなるのではないかと。(修正例)「・・・、受診率が低下した。未受診者は年度内の受診は見送ってはいるが、受診の意思は確認できていることから、しかるべき時期に必要な健診を受診するものと捉えている。」</p>					
<p>「4 施策を構成する事務事業の検証」について 「施策を構成する事務事業の検証」はおおむね的確になされていると考えられる。特に「新たに取り組むべき事業」として「望まない妊娠への対応」を課題としてとりあげている点は、高く評価できる。</p>					
<p>「5 施策の総合的な評価」について 「前年度の評価の振り返り」、「反映状況」、「成果指標の達成状況」、「施策を構成する事務事業の検証」等を踏まえ、施策の課題と今後の方向性についてその総合的な評価がおおむね的確になされていると考えられる。とりわけ、全体として妊娠届出数自体は減少している一方で支援を必要とする妊婦の数は逆に増加していること、そして支援が必要とされる個々のケースはその内容が複雑化・多様化していることなど、現時の社会における母子をとりまく状況とその健康保持・増進の課題が的確にとらえられていると評価できる。</p>					
<p>●シート記載内容全般について 施策の目指す姿は「安心して出産し親子が健やかに育っています」となっているが、施策評価シートには産後ケアに関わる部分の記載はあるが出産までの支援に関する事業の記載が比較的少ないように感じた。例えば、産科医療機関についての記載など周産期医療に関してどうなっているのか、記載がないことが気にかかった。今回ヒアリングをして、周産期医療に関する事業は他の施策「地域医療の充実」のところで扱われていることを知った。目指す姿が複数の施策を構成する事業に関わっている場合、現行の施策単位の評価の方法だけだと、適切な評価の実現を目指すにあたり一定の限界があるかもしれない。</p>					